

シンガポール航空 (SIAL)

新型コロナ対応発行の社債をすべて償還。英航空調査会社による世界航空会社ランキングで世界2位のブランド力

シンガポール | 旅客航空 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG SIA:SP | REUTERS SIAL.SI

- 2024/3期10-3月期は、総収益が前年同期比5.3%増、営業利益が同19.5%減。延べ旅客数が拡大もロードファクター、RASKほかが悪化。
- 中国とシンガポールとの間で2/9以降、短期滞在の相互ビザ免除措置が適用。インドでもエア・インディア出資でプレゼンス確保見込み。
- 財務面で新型コロナ対応で発行した社債をすべて償還。ブランド価値も英航空調査会社による世界航空会社ランキングで世界2位へ躍進。

What is the news?

5/15発表の2024/3期2H（10-3月）は、総収益が前年同期比5.3%増の98.50億SGD、営業利益が同19.5%減の11.73億SGD、純利益が同0.3%増の12.33億SGD。傘下のLCC（格安航空会社）スクートを含むのべ旅客数が同26.5%増の1909万人に拡大したものの、乗客有償座席利用率（ロードファクター）が同0.1ポイント低下の87.3%へ悪化のほか、旅客輸送容量（総座席数×輸送距離キロ）当たり収入（RASK）が同5.9%減の9.6セント（SG）、旅客1人を1キロメートル輸送して得る収入（イールド）が同6.0%減の11.0セント（SG）と悪化した。4Q（1-3月）の前四半期比は、売上高が6.2%減の47.68億SGD、営業利益が7.3%減の5.64億SGD、純利益が12.7%減の5.75億SGDだった。

2Hの事業セグメント別の売上高は、①旅客輸送収入が前年同期比10.1%増の81.35億SGD。②貨物輸送収入が同29.7%減の10.58億SGD、③その他が同40.6%増の6.57億SGD。また、主な親会社および子会社別の営業利益は、①シンガポール航空とシルクエアから構成されるフルサービス・キャリアが同13.1%減の11.23億SGD、②格安航空事業のスクートが同68.2%減の59.9百万SGD、③上場子会社SIAエンジニアリングが担うMRO（メンテナンス・修理・オーバーホール）事業が前年同期の▲15.5百万SGDから2.2百万SGDへ黒字転換だった。

How do we view this?

今年2/9以降、中国とシンガポールとの間で入国から30日以内滞在について相互にビザ免除措置が適用となった。また、成長地域インドで同社出資のエア・インディアとビスタラ航空の合併手続きが今年の10月に完了の見通し。合併後のエア・インディアグループに25.1%の株式持分比率となりインドのあらゆる航空市場セグメントに重要プレゼンスを確保できそうだ。

更に、アジア太平洋地域の輸送能力不足解消、および中東情勢悪化など地政学リスクからの代替的航空貨物輸送需要もプラス材料だろう。

転換社債型新株予約権付社債の今年6月繰上げ償還で20~21年に発行した計97億SGD分の社債をすべて償還するなど財務改善が進んだ。更に、英航空調査会社スカイトラックスによる2024年の「世界航空会社ランキング」でシンガポール航空が2位（アジア首位）、傘下のスクートも世界の長距離格安航空部門で4年連続1位とブランド価値も高めている。

配当予想 (SGD) **0.32** (予想はBloomberg)
 終値 (SGD) **6.96** 2024/7/8

会社概要

1947年に「マラヤンエアウェイズ」として創業。その後、1972年にマレーシア航空と分離して設立。同社グループは親航空会社のシンガポール航空、シルクエア、スクート、SIAカーゴ、SIAエンジニアリングで構成される。旅客輸送と貨物輸送が主要な収入源。

①親航空会社のシンガポール航空 (SIA) は、シンガポール航空ブランドを展開し、旅客にフルサービスの航空輸送を提供する。

②子会社のシルクエアは、シルクエアブランドの下、旅客にフルサービスで近距離路線向けの航空輸送を提供している。

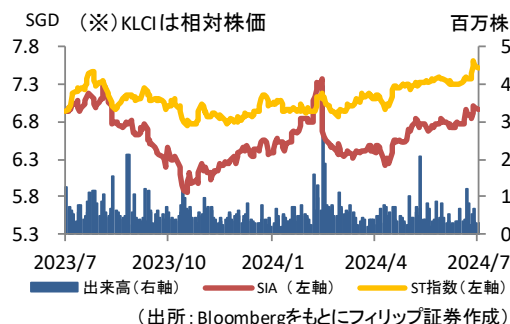
③格安航空子会社のスクートは2017年にタイガーエアと統合し、スクートブランドで世界60都市以上のネットワークを有する。

④航空貨物輸送を行うSIAカーゴは、国際航空貨物輸送では世界3位を占める。

⑤シンガポール取引所に上場する子会社のSIAエンジニアリングは、航空機のメンテナンス、修理、オーバーホール (MRO) の業界リーダーの地位を占め、世界80社以上の航空機のためにMROサービスを提供する。

企業データ (2024/7/9)

ベータ値	1.02
時価総額 (百万SGD)	20,843
企業価値=EV (百万SGD)	24,457
3ヵ月平均売買代金 (百万SGD)	34.5



主要株主 (2024/7)

1. テマセク・ホールディングス	55.27
2. VANGUARD GROUP	1.81
3. ブラックロック	1.35

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

業績推移

※参考レート 1SGD=119.13円

事業年度	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3F	2026/3F
売上高 (百万SGD)	7,614	17,774	19,012	19,136	19,246
当期利益 (百万SGD)	-962	2,156	2,674	2,263	1,451
EPS (SGD)	-0.16	0.35	0.61	0.74	0.50
PER (倍)	-	19.83	11.34	9.41	13.92
BPS (SGD)	4.29	4.60	4.96	5.22	5.30
PBR (倍)	1.62	1.51	1.40	1.33	1.31
配当 (SGD)	0.00	0.38	0.48	0.32	0.26
配当利回り (%)	0.00	5.46	6.90	4.63	3.72

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。